

(6) 木曾地域 ～地域で支え合い、育む木曾ブランド～

重点戦略1：農業・農村を支える多様な担い手の育成

| 目標指標 | H22 基準年 | H25 | | H29 目標年 |
|--------------------------------------|------------|---------|---------|------------|
| | | 計画 | 実績 | |
| 40歳未満の新規就農者数(直近5年間の累計) ※H25年度新規就農者2名 | 6人 | 5人(2) ※ | 6人(3) ※ | 10人(2) ※ |
| 集落営農組織数(受託組織含む) | 7組織 | 8組織 | 8組織 | 10組織 |

<施策の取組状況>

- **就農相談会や就農準備セミナー等の開催による新規就農者の確保**
 - 木曾地域就農促進プロジェクト推進協議会等により、関係機関・団体で新規就農に係る情報を共有して農業を志す者が就農しやすい体制を整備し、新規就農1名、法人等就農2名を確保しました。
 - 定年退職者等を対象に「農業入門講座」を開催し13名が受講され、このうち5名が新規に野菜等の栽培を始めました。
- **新規就農里親制度等の支援制度を活用した地域ぐるみによる担い手の育成**
 - 里親研修生や新規就農5年未満の者6名を対象に定期的な巡回指導等を行い、基礎的な知識の習得を進めるとともに、就農計画の実現に向けた技術や経営のフォローアップを行いました。
- **人・農地プラン作成による集落営農組織の育成**
 - 地域ごとに今後の農業のあり方について検討を行い、すべての町村で人・農地プランが作成され、昨年度策定した2村では見直しが行われました。
- **経営管理指導(法人化等)による経営感覚に優れた経営体の育成**
 - 集落営農組織等の法人化を支援し、南部機械化営農組合を母体にして(株)JAファームきそが設立されました。
- **生産基盤の整備・更新**
 - 上松町に県営中山間総合整備事業を導入し、ほ場整備等の農業生産基盤整備計画に着手しました。



【新規就農者激励会】

<今後の展開方向>

- 研修生や就農5年未満の者を対象に定期的に指導を行い、技術や経営のフォローアップを行います。(対象6人(法人就農者、研修生を含む))
- 企業訪問を行い定年退職者等(予定者を含む)を対象に「農業入門講座」を開催し(4月23日開講)、担い手を育成します。
- 農地の受皿として受託組織の強化や法人化を支援します。(対象4団体)
- 人・農地プランに基づき、農地中間管理事業を活用して農地の集積を進めます。

重点戦略2：木曾農業ブランドの「御嶽はくさい」、「木曾子牛」の生産振興

| 目標指標 | H22 基準年 | H25 | | H29 目標年 |
|-----------|------------|--------|--------|------------|
| | | 計画 | 実績 | |
| 御嶽はくさい出荷量 | 44.5万c/s | 45万c/s | 40万c/s | 45万c/s |
| 木曾子牛出荷頭数 | 822頭 | 720頭 | 651頭 | 800頭 |

<施策の取組状況>

- **農作業サポート体制の仕組みづくりと経営の改善**
 - はくさい農家3戸について、経営状況の把握と分析を行い、経営改善を支援しました。
 - 漬物業者と連携したこだわり生産について検討し、新たな販路の開拓による農家の所得向上を支援しました。

○ 需要に応じた計画生産と販路の開拓

- 夏はくさい（7月期）の適正生産量へ向けた計画生産へ誘導するとともに、はくさい代替品目としてチンゲンサイ、ジュース用トマトの試作を進めました。
- はくさいの品質向上と適正生産のため、多品目化に対応できる予冷施設機能の強化を図りました。

○ GAP導入等による安全・安心生産の推進

- はくさい集出荷施設のGAP手法の定着を図るため、監査体制の構築を支援しました。
- はくさい生産者へのGAP手法の導入を進めるための、講習会を開催しました。

○ 和牛繁殖センター等を活用した高齢農家等の生産支援

- 和牛繁殖センターによる子牛供給を開始し高齢農家を支援するとともに、機械施設を拡充し施設の機能強化を図りました。
- 木曾優良子牛生産パワーアップ協議会と連携し、繁殖講習会等の開催により生産者の技術向上を図りました。



【JA木曾和牛繁殖センター】

＜今後の展開方向＞

- はくさいの品質向上と需要に見合った適正生産を推進するとともに、経営を継続できる体制を検討します。
- はくさい代替品目として、スイートコーン、インゲンを主体に推進し、さらに有望な品目の検討を進めます。
- 安全・安心な「御嶽はくさい」の生産とブランド強化のため、集出荷施設及び生産者のGAPへの取り組みを確立します。
- 和牛繁殖センターの利用促進及びE T子牛の供給により高齢農家や新規飼育者を支援し、子牛出荷頭数の確保を図ります。

重点戦略3：木曾オリジナルブランドの確立

| 目標指標 | H22 基準年 | H25 | | H29 目標年 |
|----------------|------------|-----|-----|------------|
| | | 計画 | 実績 | |
| 販売額1千万円以上の園芸品目 | 7品目 | 6品目 | 7品目 | 8品目 |
| 米の1等米比率 | 76% | 80% | 67% | 90% |

＜施策の取組状況＞

○ 経営モデル及び消費者ニーズに基づく推進品目の検討

- 導入を検討している園芸品目について、モデルほ場を設置して収益性の検討を行いました。（チンゲンサイ、ジュース用トマト）

○ 園芸作物生産プロジェクトによる栽培技術向上支援

- 現地検討会を2回開催し、園芸作物の早期導入・定着を推進しました。
- 施設整備への支援や販売先の開拓により、トルコギキョウ、トマトの栽培者が増え販売額が増加しました。



【ヒペリカムの検討】

○ 米穀乾燥調製施設再編整備等による品質向上支援

- 斑点米発生要因となるカメムシ類の実態調査や農薬試験実証ほを設置し、効果的な防除方法の確立に取り組みました。

＜今後の展開方向＞

- 園芸作物生産プロジェクトにより新品目導入の検討を進めます。
- 農地集積及び作業委託面積の増加並びに品質確保に対応するため、乾燥調製施設の機能強化や再編整備を検討します。（上松町、木曾町）
- 防除体系の見直しによるカメムシ防除の徹底を図ります。（薬剤の見直し、ラジコンヘリ防除の使用薬剤・実施時期の見直し）

重点戦略4：中山間地域の特性を活かした元気な農村づくり

| 目標指標 | H22 基準年 | H25 | | H29 目標年 |
|---------------------|------------|---------|---------|------------|
| | | 計画 | 実績 | |
| 他産業との連携による農産物のブランド化 | 1品目 | 2品目 | 1品目 | 3品目 |
| 都市農村交流人口 | 24,937人 | 24,200人 | 23,810人 | 30,000人 |
| 木曽牛取扱店舗数 | 13店舗 | 22店舗 | 22店舗 | 25店舗 |

<施策の取組状況>

○ 生産者組織の育成による木曽ならではの食材の安定生産

- 栽培技術の向上を図るため、直売所出荷者を対象にした栽培講習会を10回開催しました。
- 直売所出荷者を対象にしたエコファーマーの取得を推進し、1組織の5名が新たにエコファーマーになりました。

○ 食品・観光産業と連携したそば等農産物のブランド化の推進

- 木曽産そばの地元での活用を推進するため、そば店を対象にしたアンケート等に基づき、地元産利用の拡大を図りました。
- 夏季の観光客需要に対応するため、木祖村へ夏そばを導入し栽培技術の向上を図りました。

○ 新たな加工品・体験メニューの提案や販路の開拓

- 生産者と漬物業者が連携し、夏季に「木曽菜」を試作して浅漬けの試験販売を行い、次年度から道の駅等で本格販売することになりました。



【郷土食・伝統野菜の情報発信(名古屋市)】

○ 観光と連携した木曽牛ブランドの強化

- 木曽牛ブランドの強化を図るため、取扱店と協働して木曽牛キャンペーン(スタンプラリー 応募者1,075人)を実施するとともに、中京方面へ木曽牛のPRを強化しました。

○ 農産物直売・農産加工施設の経営改善と人材の育成

- 6次産業化の推進を図るため研修会・相談会を行うとともに、総合化事業計画作成を支援し木曽地域第1号の認定者を育成しました。

○ 交流施設、活性化施設の整備

- 上松町における、県営中山間総合整備事業による活性化施設整備の実施計画を策定しました。

<今後の展開方向>

- 実需者と一体となったブランド力向上を進めます。
- 6次産業化に取り組む事業者のそれぞれの課題解決に向けたサポート活動(対象：6業者)を行うとともに、総合化事業計画作成を支援します。(申請目標：2件)
- 木曽ならではの食材の利用拡大を図るため、町村及び関係団体と連携し旅館等へ供給する仕組みを検討します。
- 高齢農家の直売所等への出荷をサポートするため、新たな集荷システムを検討します。

重点戦略5：住民参加による協働の農村づくり

| 目標指標 | H22 基準年 | H25 | | H29 目標年 |
|----------------------------|------------|----------|----------|------------|
| | | 計画 | 実績 | |
| 野生鳥獣による農作物被害額 | 29,108千円 | 24,000千円 | 23,873千円 | 22,000千円 |
| 中山間地域農業直接支払事業による農地等の保全活動面積 | 510ha | 470ha | 452ha | 470ha |
| 農地・水保全管理支払事業による農地等の保全活動面積 | 158ha | 198ha | 140ha | 230ha |

<施策の取組状況>

- **野生鳥獣被害対策チームによる集落の主体的な活動への支援**
 - 野生鳥獣被害対策研修会、実証展示ほ（3か所 サル）の設置及び電気柵機能点検指導（6地区）により、集落ぐるみでの活動を支援しました。
- **耕作放棄地解消に係る生産・販売への支援**
 - 牛の放牧による耕作放棄地の解消を19か所で支援しました。
 - そばの栽培技術向上を図るとともに、地元そば店での利用等販路の確立を支援しました。
- **農地や水路等の保全活動を行う組織への支援（中山間地域農業直接支払事業、農地・水保全管理支払事業）**
 - 中山間地域農業直接支払事業の集落協定に基づき、農業・農村の多面的機能を維持・増進するため共同取組活動を支援しました。
 - 農地・水保全管理支払事業の取組面積拡大のため、管内における移動キャラバンを実施しました。
 - 農村コミュニティの維持・強化を図るため、南木曾町でモデル集落を選定し、住民自らが主体性を持って取り組む農業生産や農村コミュニティビジネスを支援しました。



【耕作放棄地への繁殖和牛放牧】

<今後の展開方向>

- 野生鳥獣被害対策を指導できるリーダーを養成し、集落ぐるみでの活動へ向け体制強化を支援します。
- 中山間地域農業直接支払事業において、集落協定に基づく共同取組活動の推進と農地維持支払との連携を推進し、地域活動を強化します。
- 多面的機能支払事業を周知し、取り組み面積の拡大により農地が維持できる体制づくりを進め荒廃農地の減少につなげていきます。
- 農村コミュニティの維持を図るため、モデル的な活動事例を紹介し、各町村へ取組みを拡大します。

重点戦略6：農村資源の活用と災害に強い農村づくり

| 目標指標 | H22 基準年 | H25 | | H29 目標年 |
|------------------------------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | | 計画 | 実績 | |
| 農業水利施設を活用した小水力発電の 箇所数（容量） | 0箇所 （0kw） | 0箇所 （0kw） | 0箇所 （0kw） | 3箇所 （100kw） |
| ため池ハザードマップの作成町村数 | 0町村 | 1町村 | 1町村 | 2町村 |

<施策の取組状況>

- **農業水利施設を活用した小水力発電の推進**
 - 県営中山間総合整備事業による小水力発電施設を設置するための基礎調査を上松町が実施しました。
 - 小水力発電施設の導入支援を検討している町村を支援しました。
- **ため池の維持管理体制強化と安全対策の推進**
 - 木曾町が行うため池ハザードマップ作成を支援しました。
- **水路等の災害未然防止工事の実施**
 - 緊急に行う必要がある土砂崩壊危険か所の対策工事を順次実施しました。
- **防災無線や緊急避難路等の整備**
 - 木曾町で行う県営ため池等整備事業により、緊急避難路の整備計画を策定しました。



【農業用水を利用した小水力発電予定地：上松町】

<今後の展開方向>

- 上松町で行う県営中山間総合整備事業により、小水力発電施設を設置するための委託業務を実施します。
- 木曾町で行う県営ため池等整備事業により、緊急避難路を整備します。